



女子ダブルスは、王曼昱・張穎莎(中国)と伊藤美誠・早田ひな(日本)が対戦。伊藤と早田の攻撃とコンビネーションが良く、中国ペアを圧倒するも、最終は中国ペアのコーナーを突いた攻撃にミスが目立ち、王・張ペアが初優勝を達成した。また、もう一つの日本ペアの佐藤瞳・橋本帆乃香が銅メダルを獲得した。



女子ダブルス
王曼昱・張穎莎 (中国)

右利き同士のパワフルな攻撃が早く、運球攻撃も鋭く、流れに乗るが強い攻撃力を示した。



**Women's
Doubles**

伊藤美誠(左)・早田ひな(右)
フォームドファアでも鋭い攻撃するペアは、相手のコンビネーションを見せる。バックに打ち込まれた場面もあったが、お互いの攻撃でしっかり対応していた。



伊藤美誠(左)・早田ひな(右)
回転のかかったドライブを鋭くコーナーに打ち分け得意点をあげた。鋭い攻撃で試合巧みぶりを見せた。



佐藤瞳(左)・橋本帆乃香(右)
カットで鋭い打撃ではなく、前後左右と両側、攻撃を仕掛けるなど、多岐にわたるプレーを見せた。銅メダル



高橋南(左)・丁寧(右)
試合途中で制勝した背一組との試合は全試合に勝利。1本1本が決め手という試合内容であった。



フランチェスカ(左)・ツルヤ(右)
物陰になるコンビネーションが良く、鋭いドライブを打ち分け、ドライブ攻撃の一のメダル獲得。



吉村真晴(左)・石川佳純(右)
大会直前にエントリーがなかった吉村であったが、力を発揮し、ペアとしては大会直前の決勝へ進出。苦しい試合を制し勝ち上がった2人は、銅メダルを獲得した。

男子ダブルスは、馬龍・王楚欽(中国)と、張禹・蔣澎澎(中国)が対戦。長いボールに耐えて動きを見せるロブレス・イオネスクだったが、馬・王ペアはバックストッププレーをするなど、相手の特徴を封じる戦略を見せた。1ゲーム目を落とすが2ゲーム目以降は負上からの攻撃を繰り返して逆転し、優勝。王は16歳、今大会の最年少チャンピオンとなった。



男子ダブルス
馬龍(左)・王楚欽(右)
序盤は試合が見えた王であったが、馬龍がうまくリードし、決勝は王の積極的な攻撃が可成り。

ロブレス(左)・イオネスク(スペイン・ルーマニア)
ロブレスの両ハンド攻撃とイオネスクのスピンの効いた攻撃が多かった。スペイン側としては強、そして、ルーマニアは男子として初のメダル獲得で、各々国家選手権大会となった。



2人の快攻で制勝し、メダルを獲得。喜びを表現した。

**Men's
Doubles**



アロンローニヤ(左)・モンゾニイロ(ポルトガル)
フリーに動く。安定したプレーを見せた。準決勝ではリードをしていたのにも関わらず、決勝では強い攻撃に耐えた。



林曉暉(左)・郭焱(中国)
相手にはないものの、安定したプレーで、全ての試合をソフトにこなす2人。優勝するには決定的な打撃が欲しい。

混合ダブルス
許昕・劉詩雯 (中国)

許の鋭打と劉の早急とコース取りが良かった。金メダルにかけられる熱意が伝わってくる試合内容もみせた。



**Mixed
Doubles**

混合ダブルスは、許昕・劉詩雯(中国)と大会直前で決勝に進出している吉村真晴・石川佳純(日本)が対戦。どんなボールに耐えてもフォアハンドで強打を打ち込む許とコースをしっかりと取り戻す劉の攻撃に、吉村のトリッキーなプレーと石川の安定した両ハンド攻撃で対抗するが、許・劉の攻撃が上回り、初優勝を決めた。